

令和4年第8回（12月）定例会 一般質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
1	<p>◎ 佐渡ヶ島（SDG s）集落ツーリズム構想の実現に向けて 【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】の計画に関する確認と提案</p> <p>(1) SDG s 未来都市に選定された佐渡としてのプライドについて</p> <p>① SDG s（持続可能な開発目標）ツーリズムの推進</p> <p>② DX（デジタルトランスフォーメーション）の進捗状況</p> <p>③ GX（グリーントランスフォーメーション）の進捗状況</p> <p>④ 「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産登録の状況と今後の方針</p> <p>(2) 持続可能な地域づくり・学校づくりについて</p> <p>① 市民との意見交換会を経た佐渡市小学校・中学校再編統合計画</p> <p>② 小中学校の小規模特認校制度の導入と学区再編の可能性</p> <p>③ コミュニティスクールとGIGAスクール構想の成熟化</p> <p>④ マイプロジェクトによる課題解決型探求学習の推進</p> <p>(3) 産官学金労言（さんかんがくきんろうげん）連携の推進について</p> <p>① 佐渡島（SDG s）天・地・人サイエンスプロジェクト2022の成果・評価と次年度以降の展望</p> <p>② 宇宙甲子園（高校生を対象とした実践的な理工系教育）の誘致</p> <p>③ 廃校舎等遊休公共施設の利活用による大学・企業誘致や地域の拠点づくり</p> <p>④ 空き家再生による住まい・事業所・宿泊施設・飲食店等への利活用の推進</p> <p>⑤ 1次2次3次産業の振興と総務省特定地域づくり事業協同組合制度の導入</p> <p>⑥ リビングラボ（生活空間まるごと研究所）、佐渡ごとラボ（佐渡まるごと研究所）という考え方</p>	室岡啓史
2	<p>1 学校給食費の無償化について 憲法第26条に義務教育の無償を定めている。食育の観点、子育て支援、保護者負担軽減などから、学校給食費の無償化を実施してはどうか</p> <p>2 子ども医療費助成制度について 子ども医療費を完全無料化にすべきではないか</p> <p>3 補聴器購入費助成制度について</p> <p>(1) 実施状況と費用対効果について</p> <p>(2) 追加補正予算を組むべきではないか</p> <p>4 妊産婦医療費助成制度について</p> <p>(1) 実施状況と費用対効果について</p> <p>(2) 制度充実に向けて、完全無料化と里帰り出産も対象にすべきではないか</p>	中村良夫
3	<p>1 介護保険制度の見直しについて</p> <p>(1) 厚生労働省社会保障審議会、介護保険部会（第100回）で提起された介護保険制度見直し7つの論点について、佐渡市長としてどのように受け止め、市民の生活を守る立場から今後どのように対応するか</p> <p>(2) 介護保険制度見直し（給付と負担）について、佐渡市にとってどのような影響があるか</p> <p>① 要介護1、2を「軽度者」として保険給付から外し、市の運営する「総合事業」へ移行させることについて</p> <p>② 介護保険サービスの利用者負担は原則1割だが、今後医療保険と同様の2割・3割負担について</p> <p>③ 介護保険料納付年齢の引下げとサービス利用年齢の引上げについて</p> <p>④ 介護老人施設及び介護医療施設の多床室の室料を保険給付から除外することについて</p> <p>⑤ ケアマネジメントに要する費用の有料化について</p> <p>⑥ 特別養護老人ホームを利用している低所得者の補足給付制度において、新たに不動産要件を追加することについて</p> <p>⑦ 第1号被保険者の高所得者の介護保険料負担の在り方について</p>	佐藤 定

順	質 問 事 項	質 問 者
3	<p>2 国民健康保険の傷病手当の支給対象者について 佐渡市国民健康保険税条例において、新型コロナウイルス感染症に感染した被用者等に対し、傷病手当金が支給されているが、事業主に対して支給されていないのは、同じ国民健康保険に加入している市民にとって不平等であり同等に支給すべき</p> <p>3 佐渡市バイオマス活用推進計画の策定について</p> <p>(1) 新たなバイオマス活用推進計画が2016年9月16日並びに2022年9月6日に閣議決定され、2025年における目標設定として各市町村においてバイオマス活用推進計画策定が求められている</p> <p>① この計画策定についての方針並びにロードマップについて問う</p> <p>② バイオマス産業都市構想について、どのように取り組むか</p> <p>(2) みどりの食料システム戦略における持続可能な資材やエネルギーの調達について</p> <p>① 下水道汚泥肥料化並びに微生物分解による消化ガスの発電について</p> <p>② 家畜排せつ物のメタン発酵などによる高度化利用</p> <p>③ 国土交通省が募集する、下水道汚泥からリンを回収する新技術考案や実証する事業への応募について</p>	佐藤 定
4	<p>1 佐渡航路の課題について</p> <p>(1) 小木ー直江津航路赤字補填への対応について</p> <p>(2) 4代目こがね丸の運航について</p> <p>(3) 和幸船舶の社会実験運航について</p> <p>2 スポーツの振興と健康づくりについて</p> <p>(1) 中学校部活動の地域移行への準備は進んでいるか</p> <p>(2) スポーツ協会の在り方と指定管理について</p> <p>3 財政計画と行政運営について</p> <p>(1) 持続可能な財政には何が必要か</p> <p>(2) 効率性の高い行政運営と職員育成</p> <p>(3) 民間との役割分担</p> <p>(4) 公共施設の適正配置</p>	金田 淳一
5	<p>1 世界遺産登録が1年間延期となったことについて</p> <p>(1) むしろ準備に余裕ができたと思えることができると思うが、市はどう考えるか</p> <p>(2) 1年間の延期により、さらなる整備や準備が必要となること、航路や空路、観光設備等、現在より充実した準備が可能となることは何と考えるか</p> <p>(3) 市民のモチベーション、つまり登録に向けたやる気の維持が必要と思われるが、その対策はあるか</p> <p>2 佐渡市における連携協定について</p> <p>(1) 各連携協定（法人、大学、組織等）を締結することで目指した目的や目標、及び現在までの成果は何か</p> <p>(2) 今後の課題は何と考えるか</p> <p>(3) 連携協定を活用した今後の政策ビジョンはどのようなものがあるか</p> <p>(4) 各連携を点から線に、さらには面にする連携と拡大の政策が必要ではないのか</p> <p>3 各財団の活動状況と今後の展開について</p> <p>(1) 一般財団法人佐渡文化財団の事業進捗状況、及び組織体制の再構築はその後どうなっているのか</p> <p>(2) 一般財団法人佐渡スポーツ協会の事業と成果をどう考えるか</p> <p>(3) 世界遺産登録を見据え、新たな観光振興策と事業連携は取れているのか</p>	林 純一
6	<p>1 保育所等送迎バスへの置き去り対応防止装置について</p> <p>(1) 佐渡市で保育所・小学校等で置き去りになった事例はあるか</p> <p>(2) その後の対応や、子どもたちへの緊急時対応訓練状況はどうなっているか</p> <p>(3) 小・中学校や放課後児童クラブ等、スクールバスへの置き去り対応防止装置導入についてどのような議論がされたか</p> <p>2 保幼小中・家庭・地域連携教育の取組について</p> <p>(1) 香川県香南市では、先進的に保幼小中・家庭・地域連携教育に取り組んでいる。</p>	平田和太龍

順	質 問 事 項	質 問 者
6	<p>佐渡市の保幼小中連携状況はどうなっているか</p> <p>(2) 佐渡市では0歳から15歳までの15年間を通してどのような連携カリキュラムがあるか</p> <p>(3) 保育士等や教職員の連携状況はどうなっているか</p> <p>3 市職員の働き方の環境改善について</p> <p>(1) 過去3年間の休職者の状況について</p> <p>(2) 休職するまでの相談体制、復帰してからの支援体制はどうなっているか</p> <p>(3) 職員の有給休暇の利用状況、残業時間の状況について</p> <p>(4) RPA、AI-OCR等のデジタル技術は、地方公共団体の業務を改善する有力なツールであり、限られた経営資源の中で持続可能な行政サービスを提供し続けていくために積極的に活用すべきものであると考えるが、システムの導入についてどのような検討をしているか</p> <p>(5) コンビニ、郵便局での証明書交付について、導入を進めるべきと考えるが、どうか</p> <p>(6) 公務員の副業について、公益性の高いものや市の発展に寄与するものなど、許可の基準を設け、職員が地域の実態を間近に知ることによって課題を吸い上げ施策に反映すべきと考えるが、どうか</p>	平田和太龍
7	<p>1 コロナ感染対策について</p> <p>(1) 第8波が叫ばれているが、佐渡市の新型コロナウイルス感染者数及び入院者数は、どのように推移しているか</p> <p>(2) 市内の感染者数の公表がないため、マスクや手指消毒にも気の緩みが出てしまうのではないかと。感染の状況を分かる範囲で発表することはできないか</p> <p>2 介護帰省について</p> <p>(1) 介護帰省者に島民割引を導入することにより、使用率がどのくらい増えたのか</p> <p>(2) 年6回以上の介護帰省者への島民割引はよい制度だが、少しハードルが高すぎるのではないかと。介護帰省することにより、家屋の手入れや草刈りなど地域のために貢献しており、交通機関も佐渡在住者より利用頻度が多いので、島民割引の対象回数を下げて利用しやすくしてもよいのではないかと</p> <p>3 航路の安定を求めて</p> <p>(1) 来春から予定している小木-直江津航路の始発を島民利用が少ないという理由で、小木始発希望の佐渡島民利用者を切り捨ててしまっているのか</p> <p>(2) 直江津を始発にした場合の利用客は、どのような客をターゲットとして見込んでいるのか</p> <p>(3) 島内の利用客も長野以西へ向かう場合に小木-直江津航路を利用すれば、新潟-上越間の移動時間や経費が圧縮できるので、島内の移動時間や費用と比べたら格段にスムーズな移動が可能で時間短縮ができる。まずは市民の利便性を優先すべきと考えるが、どうか</p> <p>(4) 赤泊-寺泊の両泊航路で営業を始める和幸船舶の「栗国」を利用した貨物輸送は、佐渡への流通が増える意味では喜ばしいことで、市長も報道で「ありがたい」と意見を述べていたが、このルートでの採算は成り立つのか。佐渡市としても何かしらの支援が必要ではないか</p> <p>4 脱炭素先行地域として佐渡市は何をすべきか</p> <p>(1) COP27で3年連続の化石賞に輝いた日本で、脱炭素先行地域として佐渡市は国からの支援を当てにして2030年までの計画をこなすだけでよいのか。ほかにはできることはないか</p> <p>(2) 離島である佐渡市は、ソーラー発電を普及させるだけで脱炭素が進むので積極的に市民に協力を求めるべきではないか。今年度の新規ソーラー発電は何件増加する見込みか</p> <p>5 人口減少問題を考える</p> <p>(1) 佐渡市として人口減少の予測をしているが、減少を食い止めるために今何をすべきと考えるか</p>	中川 健二

順	質 問 事 項	質 問 者
7	<p>(2) 自然減を食い止めるためには子供を増やす必要があり、そのためには子育て世代の女性に佐渡へ来てもらう必要があるが、その対策はしているか</p> <p>(3) 社会減を食い止めるためには魅力ある街づくりが必要と考えるが、そのために佐渡市はどのようなことをしようと考えているか</p> <p>(4) 「公園デビュー」の言葉があるように、公園は子育て中の母親にはかなりのウエートを占める大切な場所だと思うが、公園の充実を考えているか</p> <p>(5) 佐渡市の1次産業の農林水産業に関わる人口が減少しているのは、1次産業での収益が低いことが原因で、魅力ある農林水産業にするために佐渡市はどのようなことを考えているか</p> <p>6 人権について</p> <p>(1) 本人通知制度はどんな経緯でできたのか。また、多くの市民が制度へ登録することによって不正取得を防げると思うが、今後どのようにして登録者数を増やしていくか</p> <p>(2) 人権意識を高めるためには、人権教育・啓発を推進する人材の育成が必要である。市職員はその職務上、市民の人権に深く関与しているため、すべての市職員が十分な人権感覚を身につけ、人権問題の解決に向けて積極的な役割を果たす職員の育成に努めることになっているが、直近ではいつ頃、どのような研修をしているのか</p>	中川 健二
8	<p>◎ 人が人らしく生きられる佐渡を子どもたちに喜んで渡すために質問をする</p> <p>1 SDGsの一環として環境美化運動推進の見直しについて</p> <p>(1) 市民の健康と出かける楽しみづくり、免許返納後の足、観光を楽しんでもらう、そして脱炭素の取組にも繋がる乗り物として自転車は最適である。しかし、道路脇の雑草や木の枝は年々増えている、道が狭く、見通しも悪くなり、自転車が走るには危険な場所が増えている。島民一丸となった環境美化活動といった事業はあるが、委託事業も担当課によって季節や回数、委託料もバラバラである。お金を有効にし、道がきれいに安全になるよう再検討が必要ではないか</p> <p>(2) 公園の環境美化も年に1回のところが多い。季節の花を植えたり、子どもたちが気持ちよく遊べる環境になるよう、地域住民が関わる委託事業を考えてはどうか。庁舎の敷地内も管理の担当を決めてきれいにすべきではないか</p> <p>(3) ボランティア用の海岸清掃マニュアルがつくられているが、活用されているのか。市長は9月定例会で「みんなで拾ってみんなできれい」の掛け声で取り組む夢を語っていた。これは経費分を公費で持ち、労力をボランティアで持続できる美化運動としてぜひ形にしてもらいたいが、どうか</p> <p>2 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律について この法律は2021年6月に改正された。その目的は、社会の対等な構成員である男女が議員として共同して参画する機会が確保されること、そして多様な国民の意見が反映され、民主政治の発展に寄与することである</p> <p>(1) 市長はこの法の基本原則の義務をどのように理解しているか</p> <p>(2) 政治分野における男女共同参画の推進に関して必要な施策を策定し、実施する責務を持っている。そのための実態調査、情報収集、啓発活動や環境整備、性的な言動などに起因する問題への対応、人材育成など多岐に渡る責務を持っていると理解するが、実施する計画を持っているか</p> <p>3 5歳から11歳以下の子どもたちへの新型コロナワクチン接種について 国の方針が変わり、これまで希望制だったものが努力義務になることを受け、従わなければならないのか、と大きな戸惑いや、本当に子どもたちの健康が生涯に渡って守られるワクチンであると信じていいのか、など不安を覚えている市民がたくさんいる。海外では新型コロナワクチン接種の中止をした国々もあり、またこの治験が終了していない段階での国の方針であるため、従来のように保護者と本人の自由意志である、とすべきと考えるが、佐渡市の見解と方針を問う</p> <p>4 東京電力の柏崎刈羽原発の再稼働について</p> <p>(1) 8月に岸田首相が、来年の夏以降、柏崎刈羽原発の6号機、7号機も含む原発の再稼働の方針を発表した。花角知事が行っている「3つの検証」はまだ報告の途上</p>	荒井 眞理

順	質 問 事 項	質 問 者
8	<p>にあるが、その中身を踏まえ、市長は岸田首相の再稼働方針についてどのような見解を持っているか</p> <p>(2) 10月20日には7号機のタービン建屋の配管に直径およそ6センチメートルの穴が見つかった。この配管は、2011年11月以降使われておらず、今回担当者が事前に配管の状態を確認していたが穴を見落としとしており、海水を流したところ、それが漏れたことで発覚した。東京電力の柏崎刈羽原発のこのような人為的過失が続く事態について市長はどのような意見を持っているか</p> <p>(3) 世界一大きい規模の柏崎刈羽原発に事故があれば、放射能による犠牲者は住民一人一人である。再稼働について、東京電力から同意を求められる自治体に佐渡市も加わることで、そしてその意思表示に当たり、市民の意向を聞くことが懸命と考えるが、どうか</p> <p>5 武力紛争に巻き込まれる有事の際の住民などの保護について</p> <p>(1) 6月定例会の一般質問でも取り上げたが、その後、佐渡市は、武力紛争時に軍民と一般市民など文民とを分けて保護することを規定しているジュネーブ条約についてどのような理解をしているか</p> <p>(2) 佐渡市国民保護計画に一般市民の保護を規定するジュネーブ条約を加え、一般市民や島内関係事業者など当事者にあらかじめ周知すべきと考えるが、その方針を検討してみてはどうか</p> <p>(3) 国内で武力紛争事態など有事が発生する事態が想定される際に、佐渡市内にいる一般市民に対して、国民保護計画に基づき行政が対応すべきことは決められている。その計画による具体的な準備はどの程度実行されているのか</p> <p>6 ユネスコ憲章を尊重した佐渡市の政策、事業展開について</p> <p>(1) 世界文化遺産登録を目指す佐渡島として、ユネスコ憲章の前文と第1条第1項にあるユネスコの目的を理解することはとても重要なことと考える。市長はどのように理解し、またユネスコ憲章の前文と目的を佐渡市民も知ったり触れたりすることは大切であるが、その機会をさらに増やすための話合いや講座などの取組を検討してはどうか</p> <p>(2) 世界ジオパークもユネスコのプログラムであり、佐渡ジオパークも将来的に日本ジオパークからユネスコ世界ジオパークへ認定されることを期待する。2023年には佐渡ジオパークは日本認定10周年を迎えるが、今後のユネスコ世界ジオパーク認定への可能性について政策を持っているか</p>	荒井 眞 理
9	<p>1 佐渡航路について</p> <p>(1) 4代目「こがね丸」(旧えひめ) 船舶購入支援について 市長は、4代目「こがね丸」購入に伴う行政支援を行うことを表明しているが、県等との協議内容と市の基本的な考え方及び負担の在り方について。また、報道にある新潟県案の負担割合とするのか</p> <p>(2) 燃料サーチャージ上乗せの航路運賃値上げに、当面、ときわ丸還元分で市が立て替えて対応すべきではないか</p> <p>(3) 佐渡空港2,000メートル化に向けた取組について トキエアの動きに合わせ、県営空港として新潟県の在り方を明確にすべきではないか。今年度の現状の取組と今後の方向</p> <p>2 地域づくりについて</p> <p>(1) 今年度の新規事業の「地域コミュニティ交付金」事業の状況 特別交付税措置のある高齢者ごみ出し支援を位置づけるべきではないか</p> <p>(2) 地域の暮らしを支える公共施設統廃合での住民との向き合い方について 渡辺市政になって、公共施設の在り方が放置されてきたのではないか</p> <p>3 介護保険外の在宅福祉サービスについて 高齢者のみ世帯などへの在宅福祉サービスにおける内容、対象者の拡充</p> <p>4 監査指摘と内部統制について</p> <p>(1) 令和3年度監査指摘に基づく改善状況</p> <p>(2) 会計年度任用職員の更新及び、外部人材活用の状況について</p>	中川直美

順	質 問 事 項	質 問 者
9	(3) 過去の不祥事から制定された市職員の行動規準、責務等に関する条例及び市コンプライアンスは徹底されているか	中川直美
10	1 水道事業の水源池が借地でいいのか 2 井坪地内の無許可盛土について問う 3 防火水槽・消火栓設置数は適切か 4 市役所職員の残業状況を問う 5 島内の美化運動について問う 6 障害者の雇用状況を問う 7 真野体育館について問う 8 佐渡汽船について問う 9 島内に新しいバス停はできないか	山本健二
11	1 新型コロナウイルス感染症について (1) オミクロン株対応2価ワクチンの接種状況、広報について (2) 新型コロナウイルス感染者数の把握について 2 路線バスの交通系電子マネーの導入について 3 米の消費について (1) シングル世帯、非課税世帯、多子世帯への配布を実施すべき (2) 佐渡の米を食卓に、佐渡産米の消費を促進する条例を制定すべき 4 藻浦地区の字変更について 5 給食費の無償化について 6 佐和田体育館跡地への公園設置について	北 啓
12	1 「期待感と不安感」が混在する佐渡汽船の動向 (1) 「値上げ」に対する経営方針 (2) 4代目こがね丸導入に伴う行政支援 (3) 船舶リプレース方針 2 今求められる経済対策とは (1) 前倒し公共工事 (2) 安全安心まちづくり事業（コロナ経済対策） 3 公共施設の行方 (1) 公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の進捗 (2) 市有温泉施設の市長方針 (3) あいぽーと佐渡再生化計画 4 自殺対策について (1) 市の自殺対策の成果と課題 (2) 「自殺総合対策大綱」改定に伴う市の対応は (3) 自殺対策SNS相談事業の検討	後藤勇典